

# 定期作況報告

(第6号 平成15年10月20日現在)  
北海道立上川農業試験場

## 1. 気象概況

9月下旬：最高気温および最低気温は平年より各々0.6、0.9 低かった。降水量は平年より30mm 少なく、平年対比41%であった。降水日数は平年より2日少なかった。日照時間は平年より4.3時間多く、平年対比109%であった。

10月上旬：最高気温は平年並であった。最低気温は平年より2.1 低かった。降水量は平年より15mm 少なく、平年対比67%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より15.8時間多く、平年対比144%であった。

10月中旬：最高気温は平年より1.4 低かった。最低気温は平年より0.5 高かった。降水量は平年より1mm多く、平年対比103%であった。降水日数は平年より1日多かった。日照時間は平年より10.4時間少なく、平年対比73%であった。

9月下旬から10月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温( )	18.4	19.0	0.6	15.9	15.9	0.0	12.7	14.1	1.4	15.7	16.4	0.7
最低気温( )	7.5	8.4	0.9	4.2	6.3	2.1	4.3	3.8	0.5	5.3	6.2	0.9
平均気温( )	12.4	13.3	0.9	9.5	10.7	1.3	8.3	8.8	0.5	10.0	10.9	0.9
降水量(mm)	21	51	30	31	46	15	33	32	1	85	129	44
降水日数(日)	4	6	2	5	6	1	7	6	1	16	18	2
日照時間(h)	53.2	48.9	4.3	51.4	35.6	15.8	27.9	38.3	10.4	132.5	122.8	9.7

注1) 比布アメダス観測値により上川農試で算出。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。上川農試で算出。

3) 印は平年に比べて減を示す。

## 2. 作 況

1) 水 稲 : 不良

事 由 :

[籾数] :  $m^2$ 当たり穂数は成苗「きらら397」が平年よりやや少なかったが、中苗2品種では平年並からやや多かった。一穂籾数は平年対比73~86%でかなり少なかった。 $m^2$ 当たり籾数( $m^2$ 当たり穂数×一穂籾数)は30,000粒を下回り、平年対比74~84%で大幅に少なかった。

[稔実歩合・稔実籾数] : 「きらら397」の稔実歩合は成苗が83%で平年よりかなり低く、中苗が88%で平年よりやや低かった。中苗「ほしのゆめ」は平年並であった。よって、 $m^2$ 当たり稔実籾数( $m^2$ 当たり籾数×稔実歩合)は23,000粒前後となり、平年対比75~81%で大幅に少なかった。

[登熟歩合・ $m^2$ 当たり登熟籾数] : 登熟歩合は中苗・成苗ともに平年を上回った。しかしながら、 $m^2$ 当たり籾数が大幅に少なかったため、 $m^2$ 当たり登熟籾数は22,000粒前後で、平年対比81~89%となった。

[精玄米千粒重] : 中苗・成苗とも平年より重かった。

[精玄米重] : 粒厚1.90mm以上の収量は「ほしのゆめ」中苗が年対比84%で、「きらら397」の中苗および成苗は平年対比それぞれ77%、85%であった。

以上、いずれの品種・苗も収量が平年を大幅に下回り、品種・苗をこみにした収量の平年対比は82%であった。このため、本年の作況は不良である。

表2 収量構成要素・決定要素および収量

品 種 苗	$m^2$ 当り穂数(本)				一穂籾数(粒)				$m^2$ 当り籾数(×1000粒)			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
きらら397 中苗	750	693	57	108	37.3	47.9	10.6	78	28.0	33.2	5.2	84
ほしのゆめ 中苗	770	756	14	102	33.3	45.8	12.5	73	25.6	34.6	9.0	74
きらら397 成苗	681	713	32	96	40.6	47.2	6.6	86	27.6	33.7	6.1	82

  

品 種 苗	稔実歩合(%)				$m^2$ 当稔実籾数(×1000粒)				登熟歩合(%)			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
きらら397 中苗	88.1	92.1	4.0	96	24.7	30.6	5.9	81	80.9	77.0	3.9	105
ほしのゆめ 中苗	92.0	91.3	0.7	101	23.6	31.6	8.0	75	84.8	77.8	7.0	109
きらら397 成苗	83.0	91.2	8.2	91	22.9	30.7	7.8	75	79.4	78.0	1.4	102

  

品 種 苗	$m^2$ 当登熟籾数(×1000粒)				精玄米千粒重(g)				精玄米重(kg/10a)			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
きらら397 中苗	22.7	25.6	2.9	89	23.3	22.5	0.8	104	457	594	137	77
ほしのゆめ 中苗	21.7	26.9	5.2	81	22.6	22.3	0.3	101	477	569	92	84
きらら397 成苗	21.8	26.3	4.5	83	23.5	22.9	0.6	103	513	602	89	85

注1) 平年値は平成8~14年7力年のうち平成10年(最豊年)、平成14年(最凶年)を除いた5力年の平均を用いた。ただし、「ほしのゆめ」は平成9~14年6力年のうち同2年を除く4力年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて減を示す。

3) 稔実歩合: 触手で求めた。

4) 登熟歩合: 比重1.06の塩水選で求めた。

5) 千粒重・精玄米重: 粒厚1.90mm以上。水分15.0%に換算。

2) 秋まき小麦 : やや良

事由: 播種が平年より6日早かったため、草丈、茎数、葉数ともに平年を上回っている。  
したがって、目下の作況はやや良である。

表3 10月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名	播 種 期 (月日)			草 丈 (cm)			茎 数 (本/m <sup>2</sup> )		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ ホクシン	9.5	9.11	6	29.9	25.0	4.9	1759	1232	527
	9.5	9.11	6	28.8	24.0	4.8	1698	1312	386

品 種 名	葉 数 (枚)		
	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ ホクシン	6.1	5.0	1.1
	6.0	5.3	0.7

注1) 平年値は、前7か年中、平成9年、14年を除く5か年の平均値(収穫年度)。

2) は平年より早を示す。

3) とうもろこし: 良

事由: 収穫期は平年並で、収穫時の熟度も平年並であった。不稔個体割合は、「キタユタカ」は平年よりやや多く、「P3732」は少なかった。乾総重は両品種とも平年を上回り、特に「P3732」が平年を大きく上回った。乾雌穂重は、雌穂の先端不稔が多かった「キタユタカ」は平年をやや下回ったが、「P3732」は平年を大きく上回った。総体の乾物率は、「キタユタカ」は平年並であったが、「P3732」は平年より高かった。この結果、TDN収量の平年対比は「キタユタカ」102%、「P3732」は118%で、2品種平均では110%となった。  
したがって、作況は良である。

表4 とうもろこしの収量

品 種 名	収 穫 期 (月日)			収 穫 時 熟 度		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ P3732	9.22	9.22	0	黄中	黄中	-
	9.22	9.22	0	黄初	黄初	-

品 種 名	不 稔 個 体 割 合 (%)			乾 総 重 (kg/10a)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ P3732	11.7	10.7	1.0	1819	1754	65
	0.0	16.3	16.3	2181	1888	293

品 種 名	乾 雌 穂 重 (kg/10a)			総 体 の 乾 物 率 (%)			T D N 収 量 (kg/10a)			
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	対 平 年 比 (%)
キタユタカ P3732	779	818	39	27.4	27.4	0.0	1267	1241	26	102
	968	738	230	28.6	26.8	1.8	1529	1297	232	118

注1) 平年値は、前7か年中、平成12年、13年を除く5か年の平均値。

2) 平成10年度より栽植本数を7576本/10aに変更した。

3) は平年より減を示す。

4)大豆 : やや不良

事由: 成熟期は、「トヨムスメ」で平年より1日早く、「トヨコマチ」では平年より1日遅れた。主茎長は両品種ともほぼ平年並であり、主茎節数は「トヨムスメ」で平年並、「トヨコマチ」では平年を若干上回った。分枝数は両品種とも平年を下回った。着莢数は両品種とも平年を下回った。

したがって、現在の作況はやや不良である。

表5 成熟期の大豆の生育

品 種 名	成 熟 期 (月日)			主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	10. 1	10. 2	1	63	62	1	10.4	10.3	0.1
トヨコマチ	9.25	9.24	1	65	64	1	11.2	10.8	0.4

品 種 名	分 枝 数 (本/株)			着 莢 数 (個)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	6.5	7.5	1.0	64	76	12
トヨコマチ	6.5	6.8	0.3	69	76	7

注1) 平年値は、前7か年中、平成9年(最豊)及び平成8年(最凶)を除く5か年の平均値。

2) は平年より早、 は平年より減を示す。

5)小豆 : 良

事由: 登熟期間が長かったため、百粒重は両品種とも平年より重くなり、子実重は平年より25%~27%多収となった。屑豆率は両品種とも平年より低い。

したがって、作況は良である。

表6 小豆の収量

品 種 名	子 実 重 (kg/10a)			
	本 年	平 年	比 較	対平年比 (%)
サホロショウズ	450	359	91	125
エリモショウズ	450	355	95	127

品 種 名	100粒重 (g)			屑 豆 率 (%)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	16.1	14.4	1.7	1.6	3.2	1.6
エリモショウズ	13.9	12.8	1.1	1.4	2.5	1.1

注1) 平年値は、前8か年中、平成14年(最豊)、平成11年(最凶)、平成12年(参考)を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

6) ばれいしょ : 良

事由: 「農林1号」の上いもならびに中以上いもの収量は平年対比119%、125%と高かった。でん粉価は平年に比べ1.9%高く、でん粉収量は平年対比132%と多収であった。

「男爵いも」の枯凋期は、茎葉が二次生長したため、平年より8日遅かった。上いも収量は平年より699kg多く、平年対比115%と多収であった。また、中以上いも収量も平年対比124%と多収であった。でん粉価も平年より1.5%高かった。

このように、早生種ならびに晩生種とも多収となった。  
したがって、作況は 良 である。

表7 収穫期のばれいしょの生育、収量

品 種 名	枯凋期(月日)			上いも重(kg/10a)			中以上いも重(kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
農林1号 男爵薯	9.27	未達	-	6785	5710	1075	6448	5166	1282
	8.31	8.23	8	5217	4518	699	4683	3791	892

品 種 名	でん粉価(%)			でん粉重(kg/10a)			収量平年比(%)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	上いも	中以上	でん粉
農林1号 男爵薯	17.2	15.3	1.9	1101	834	267	119	125	132
	15.5	14.0	1.5	-	-	-	115	124	-

注1) 平年値は前5か年の平均値。

7) てんさい : 良

事由: 収穫は平年より3日遅い10月20日に行った。茎葉重は平年に比べ10a当たり1460kg下まわった。土砂付き重量は10a当たり9450kgで、根部の肥大は良好であった。根中糖分、糖量は分析中であるが、本年の気象経過ならびに根部の肥大が良好なことから根重、根中糖分、糖量とも平年を上まわるものと思われる。

したがって、目下の作況は 良 である。

表8 収穫期のてんさいの生育、収量

品 種 名	茎葉重(kg/10a)			根重(kg/10a)			根中糖分(%)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
モノホマレ	3935	5395	1460	(9450)	7479	(1971)	-	16.8	-

品 種 名	糖量(kg/10a)			平年比(%)		
	本年	平年	比較	根重	根中糖分	糖量
モノホマレ	-	1248	-	-	-	-

注1) 平年値は前7か年中、平成10年、11年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

3) 根重は本年は土砂付き重量を、平年値は土砂引き重量を示す。